

愛産研 ニュース 増補版

愛産研ニュース(増補版)
平成17年10月5日発行
No.18

編集・発行
愛知県産業技術研究所 企画連携部
〒448-0003 刈谷市一ツ木町西新割
TEL 0566(24)1841・FAX 0566(22)8033
URL <http://www.aichi-inst.jp/>
E-mail info@mb.aichi-inst.jp

10 月号
2005

今月の内容 愛知万博でのロボットプロジェクトと将来のロボット制度
生体材料
木質プラスチックの加飾
硬さ試験法

愛知万博でのロボットプロジェクトと将来のロボット制度

1. 愛知万博「ロボットプロジェクト」

愛知万博で展開された「ロボットプロジェクト」では会場内で掃除・警備・接客など、実際に働くワーキングロボットのデモンストラーションや、将来実用化を目指す63種類のロボットを一挙に展示するプロトタイプロボット展(6/9~19)などロボットに関する様々なイベントが実施されました。

万博でのワーキングロボットのような私たちの生活の中で働くロボットが普及する為には技術的な研究が不可欠なのですが、同時に安全確保などを目的とした法制度の整備も必要になります。そのため万博において安全性確保を主眼とした制度の運用試験が行なわれました。

2. ロボットの制度整備

経済産業省のロボット政策研究会が今年5月にまとめた中間報告では、技術動向から法制度の整備まで今後のロボット産業育成に係る提言が数多くされ、その中で万博をロボットの安全性確保のためのガイドラインの策定・運用試験の場とし、この試験結果をふま

えて将来の一般化したロボットの制度策定を行なうべきと提言しています。万博での制度は下の図のようになっていきます。

ISO12100 体系に沿ったロボット事業者によるリスク対策の実施

事業者によるリスク対策の客観的評価を行う第三者機関の設置

万が一生じた事故に対する補償制度(保険)

今回の運用試験は万博という限られた状況下で行われました。この制度を一般化する作業はロボットの種類や使用状況など様々な状況が想定されるため、今回の結果次第では変更もありえます。また、で挙げたISO12100体系には産業用以外のロボットの規格自体が存在せず、この検討も現在実施されています。

当所においてもリハビリ支援ロボットの研究開発を実施していますが、常にこれら制度や規格策定の動向をにらみつつ研究を行なっています。

・ロボット政策研究会 中間報告

<http://www.meti.go.jp/policy/robotto/cyukanhoukokuhonbun.pdf>

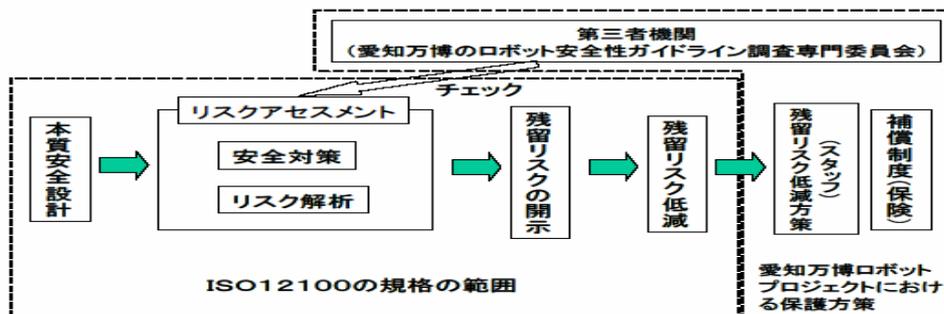


図 愛知万博のロボットプロジェクトの安全性に関する検討の流れ
(ロボット政策研究会中間報告より)



工業技術部 機械電子室 酒井昌夫 (masao_sakai@pref.aichi.lg.jp)
研究テーマ: リハビリ支援ロボットの開発
指導分野: メカトロ関連